

教育関連記事

エデュサン

edu sun

8

2025 / No.119



「運動会ごっこ」でお父さんとお母さんと一緒に準備運動。始まる前からやる気満々です

(photo: ニューヨーク育英学園ニュージャージー校アフタースクール)

1. 教育レポート

◆ [NY の教室から日本全国に広がる新しい学校劇の形（NY 育英学園）](#)

◆ [科学の迫力を体感！アメリカ自然史博物館を訪れて（NY 日本人学校）](#)

2. NY 教育関連ニュース

◆ [全米トップクラスの評価 NY 州の「教育力」](#)

◆ [IQ で未来の子どもを選ぶ？ アメリカで急成長する「天才児ビジネス」の光と影](#)

◆ [NY 周辺の「高校ランキング」が今年も発表、気になるトップ校はどこ？](#)

◆ [アメリカへの留学生の滞在期間を「4年」に限定へ、報道関係者のビザにも影響か](#)

◆ [ビリオネア投資家も注目、NY・マンハッタンにオープンする「私立校」のAI カリキュラムがスゴい](#)

◆ [教師が AI で「6週間」を取り戻す！？ 教育現場で広がる活用と課題](#)

◆ [グラミー賞受賞ミュージシャンが教育現場に、時代遅れの「アート授業」をアップデート](#)



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

NY の教室から日本全国に広がる新しい学校劇の形

NY 育英学園

2025.09.03

日本全国で働く私立小学校教員が一堂に会し、それぞれの教育現場での実践や研究を報告する日本私立小学校連合会・全国教員夏季研修会が8月18日から20日まで、横浜で開催された。初日には、ニューヨーク育英学園全日制インターナショナルスクールでの学園祭における劇発表の実践が紹介され、参加者の注目を集めた。

発表を行ったのは、同学園全日制小学部の元教頭で、現在は相模女子大学小学部に所属する米原佑樹さん。テーマは「メディアを活用して、劇の可能性を広げる～ニューヨークの子どもたちの想いに寄り添った劇をつくる～」。

多文化社会ニューヨークで学ぶ子どもたちは日々、言語や文化の壁、少人数クラスの制約に直面している。米原さんは、そうした子どもたちが抱える想いを劇の中でどう表現し、昇華していくのかといった問い合わせ出発点にした取り組みを紹介した。

報告では、遠く離れて暮らす友だちとの絆を劇で表現した試みや、わずか2人の児童で25分間の劇を演じきった例を取り上げた。子どもたちは単に役を演じるのではなく、自らの経験や感情を投影しながら物語を紡いでいく。その過程で、録音や映像メディアを積極的に活用することで、日本に転校した児童の音声による出演を可能にしたり、事前に撮影した映像と舞台上の演技を組み合わせたりするなど、新たな表現方法に挑戦した過程も紹介した。

メディアと舞台上の表現を融合させた、今までにない演出方法に注目が集まったが、米原さんは「メディアはあくまでもツールであり、大切なのは子どもたちの想いに寄り添った劇を作ること。劇は単なる発表のための活動ではなく、子どもの想いを表現し、願いを叶えていく場である。それを表現する一つの選択肢としてメディアを使えるようにしておくことが大切」と強調した。

発表後、参加した教員からはメディアを使った表現への賞賛の他にも「ニューヨークで学ぶ子どもたちが力を合わせ、英語や日本語で劇に取り組む姿を知り感動した」「子どもたちの心情を劇の中にリンクさせる手法に驚いた。自分も挑戦してみたい」「子どもたちが作り上げた巨大な背景画が素晴らしい」「遠く離れた友だちとの絆を劇で表現して見せたことや、2人だけであのようない劇を創り上げたことに心底驚いた」などさまざまな視点から感想が寄せられ、中には子どもたちの劇に感銘を受けて涙を浮かべる教員も多くいた。

今回の報告は、海外に暮らす日本人子女の教育現場で生まれた実践であると同時に、日本国内の教育にとっても示唆に富む内容だった。ニューヨークの教室から発信された劇づくりの試みは「子どもの心に寄り添う教育とは何か」を改めて問い合わせ直す機会を提供したようだ。

ニューヨーク育英学園の子どもたちの挑戦が示したもののは、劇の持つ可能性の広がりと、その根底にある子どもの想いや可能性に寄り添う教育の大切さだ。日本と世界をつなぐ教育の現場から生まれた新しい学校劇の形は、今後さらに広がりを見せていくだろう。(情報・写真提供：米原佑樹)



ニューヨーク育英学園で実践した作劇についての発表を行う米原さん



研修会には日本全国から多くの教師が参加した。
米原さんの発表を熱心に聴講する参加者たち

科学の迫力を体感！アメリカ自然史博物館を訪れて

NY日本人学校

2025.09.03

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）中等部の9年生16人は28日、校外学習の一環としてアメリカ自然史博物館を訪れた。

ニューヨーク市内にあるこの博物館は、恐竜の化石や鉱物、動植物、宇宙に関する膨大な資料を収蔵。世界有数の自然科学博物館として知られている。科学的探究心を育む場として大きな役割を果たしているが、映画の舞台になるなど世界中の人たちから親しまれている。

生徒たちは事前に理科の授業で学習したうえでこの日の見学に臨んだ。恐竜の巨大な骨格標本や最新の宇宙技術の展示を前に解説を読み込み友達と発見を語り合うなど、事前の学びを実際の展示で確認し、さらに学びを深めているようだった。

今回の訪問は生徒たちにとって、自然科学の迫力に触れると同時に興味を広げる貴重な体験となったようだ。今後は事後学習として博物館で得た知識を整理し、写真や図も交えながら理科の学習課題としてまとめていく予定だ。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



見学後は皆で記念撮影「今度はお父さんお母さんと一緒に来たいね」



淡水生物についてのインタラクティブ展示で
学習する生徒たち



マンモスの歯の模型にもタッチ。「でっかいなあ～」



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



写真はイメージ (photo: Unsplash / Tim Mossholder)

全米トップクラスの評価 NY州の「教育力」

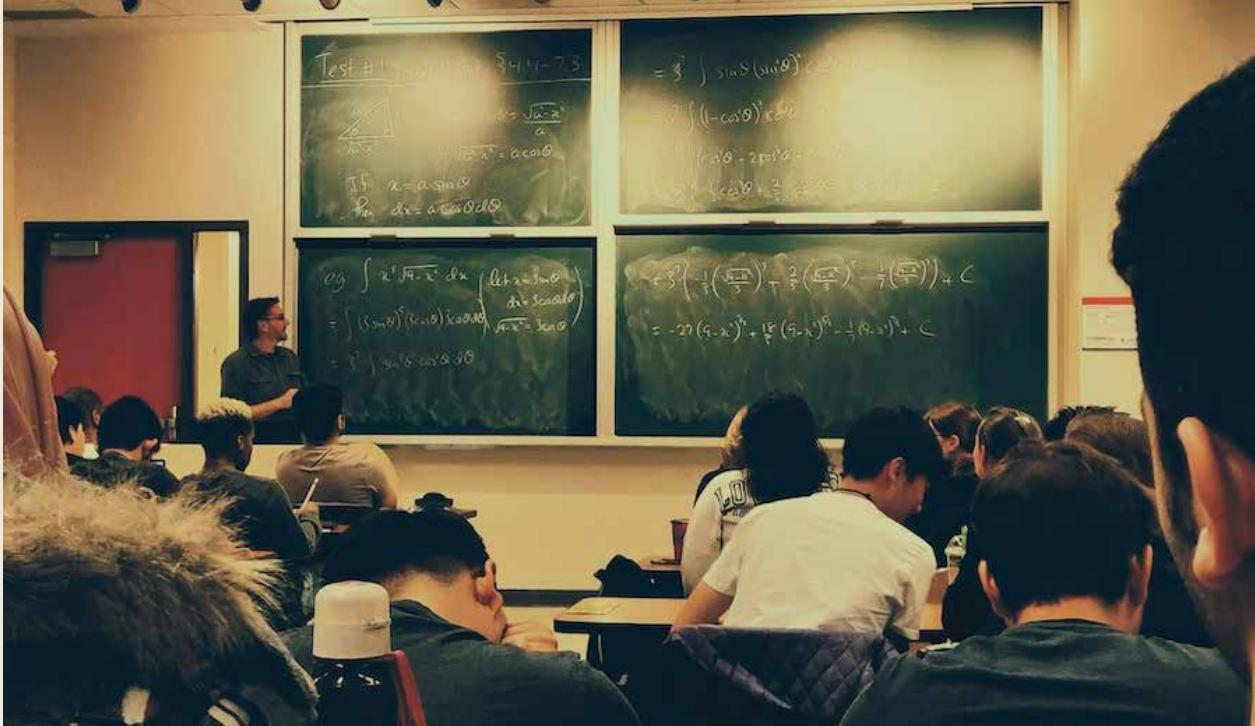
2025.08.04

ニューヨーク州の学校システムが全米で10番目に優れていることが、個人のための金融情報サイト、ウォレットハブ (WalletHub) の調査により明らかになった。同サイトが21日、発表した。

他の同様の研究が主に学業成績や学校の財政に焦点を当てているのに対し、ウォレットハブは成績、資金調達、安全、クラスサイズ、教員の資格など多角的な要素を含めた32の指標で比較、総合的に優れた州をランキング化した。50の州とワシントンD.C.の中でニューヨーク州は総合で10位、教育の質では7位だった。また、高校卒業率、中退率、標準テストの成績、SAT・ACTの中間点、APスコア、生徒と教師の比率などでも高い評価を受けた。

遠隔学習計画の整備状況では1位、ACTの中間スコアでは6位と際立っていた。ただし、安全性に関しては20位にとどまり、いじめの発生率や薬物へのアクセスのしやすさなどの課題も見られた。一方で、読解力テストや教師の資格保有率では27位と平均だった。上位10位は次の通り。

1位、マサチューセッツ州	6位、ウィスコンシン州
2位、コネティカット州	7位、ロードアイランド州
3位、ニュージャージー州	8位、インディアナ州
4位、バージニア州	9位、メリーランド州
5位、ニューハンプシャー州	10位、ニューヨーク州



「遺伝子最適化」産業は、ナチスドイツや日本の優生保護法など優生思想を想像させるとして嫌悪感を示す人もいる。写真はイメージ (photo: Unsplash / Shubham Sharan)

IQで未来の子どもを選ぶ? アメリカで急成長する「天才児ビジネス」の光と影

2025.08.14

米シリコンバレーで、エグゼクティブ男女を対象に天才児の親になれる「遺伝子最適化」産業が興隆している。その裏には知能指数 (IQ) 信仰がある。しかし危険をはらむと警告する声もある。ウォール・ストリート・ジャーナルが 12 日、伝えた。

シリコンバレーは、トップレベルのプレスクール（保育園と同等の教育施設）に IQ テストがある土地柄。「頭が良くないと成功しない」との強迫観念がある。それが少しでも知的能力の高い子どもを持ちたいと「遺伝の最適化」サービスに駆り立てているのだ。

テック業界のエグゼクティブが結婚相談所へ押しかける。アイビーリーグ卒業の伴侶を求めているという。サービス料は 50 万ドル。人工授精でベストな結果が出るよう遺伝子診断で IQ を予測するサービスも利用者が多い。その代金は 6000 ~ 5 万ドル。IQ 予想をしながら体外受精 (IVF) を試みるソフトウェアのエンジニア夫婦は「このあたりでは至極当たり前のこと」と話す。

ヒトの胎芽の IQ テストなどを 5 万ドルで請け負う、バークレー・ジェノミックス・プロジェクトの共同設立者で數学者のタビ・ボストン＝ティルセンさんは AI が人類を破滅させるのを阻止する研究に数年間を費やした。しかし、現時点ではそれが不可能と判明。だから、「AI から人類を救うことのできるスーパーヒューマン作りに一役買いたい」という。

ただ、「高 IQ 目的で、愛のない結婚」を生む恐れがある。また、遺伝子最適化の努力が実を結ぶかはいまだに不明だ。せいぜい IQ が 3 ~ 4 ポイント上がる程度との分析もある。さらに、両親の選択を手助けするとはいうものの、危険な優生学的行為と背中合わせだ。「果たして公平だろうか」とスタンフォード大学の法律とバイオサイエンスセンターのハンク・グリーリー所長は指摘する。「金持ちが遺伝子を操作して、われわれを支配するというのは、SF (サイエンスフィクション) の世界だけにしてもらいたい」と顔をしかめた。



ニュージャージー州で2位に選ばれたバーゲン・カウンティー・アカデミーズ (Photo: Miki Takeda)

NY周辺の「高校ランキング」が今年も発表 気になるトップ校はどこ？ 2025.08.26

毎年注目を集める U.S. News & World Report の「全米ベスト高校ランキング」が8月19日に発表され、ニューヨーク市とその近郊のニューヨーク・メトロエリアから多くの名門校が選ばれた。

今回は、ニューヨーク市、ウエストチェスター郡、ロングアイランド、ニュージャージー州（うちニューヨーク・メトロエリア）におけるそれぞれの高校トップ10を紹介する。

◆ ニューヨーク市

トップに選ばれたのは Queens High School for the Sciences at York College。少人数制で研究型の学びを重視し、大学キャンパスと隣接した環境が大きな特徴。

◆ ウエストチェスター郡

トップは Edgemont Junior-Senior High School。アカデミックな成果だけでなく、地域に根ざした教育や生徒の主体性を重んじる校風が高く評価された。

◆ ロングアイランド

Jericho Senior High School がトップ。多彩な AP プログラムと安定した進学実績で知られ、地域でも屈指の進学校として評価を得ている。

◆ ニュージャージー州 (NY メトロエリア : NYへの通勤エリア)

ニュージャージー州からは High Technology High School (モンマス郡) がトップに。工学や科学分野に特化したカリキュラムを強みとし、STEM 教育の先進校として全米的にも注目を集めている。

2位の Bergen County Academies (バーゲン郡) は7つの専門アカデミーを備え、医学から工学、ビジネスまで幅広い分野で高度な教育を行う、州内屈指の進学校。日本を含む、世界の学校との交流も盛んだ。

◆ まとめ

ニューヨーク・メトロエリアは、ニューヨーク市の進学校に加え、郊外やニュージャージー州の専門校も全米レベルで高く評価されている。今後も、居住地や進学を考える上で、このランキングは重要な指標となるだろう。[…詳しくはウェブへ](#)



トランプ政権は、合法滞在ビザ保持者以外にもグリーンカード保持者にも締め付けを強めている。写真はイメージ (photo: Unsplash / Airam Dato-on)

アメリカへの留学生の滞在期間を「4年」に限定へ、報道関係者のビザにも影響か

2025.08.28

米国土安全保障省（HSD）は27日、留学生、交流訪問者、報道関係者の滞在期間を制限する政策提案を発表した。CNNが28日、伝えた。

Fビザを保持する留学生は現在、卒業後も60日間アメリカに滞在できる。今後は「プログラムの期間内まで、しかも4年を超えない」となる。研究者など文化的な交流訪問者（Jビザ）にもこのルールが適用される。報道関係者（Iビザの大部分）は240日までに限られることになるが、日数の延長も可能としている。

「過去の政権は留学生やその他のビザ保持者の長期滞在を許してきた。そのまま居続ける場合もあり、安全面でのリスクがあるだけでなく、納税者の負担がかさみ、アメリカ国民に不利益をもたらす」とHSDの報道官は声明文で説明している。

さらに「各種ビザ保持者のアメリカ滞在許可期限を制限することで、乱用に終止符を打つ。これにより、留学生の適正な管理が容易になり、追跡調査などの必要がなくなる分、負担が軽減される」としている。

ビザやグリーンカードなど合法的な滞在資格を有する外国人の取り締まりを強めるトランプ政権。すでに米国務省が留学生ビザの制限を開始している。今年だけで6000人以上がビザを取り消されている。多くは、暴行、飲酒運転、窃盗、「テロ活動支援」などが主な理由と説明されている。それにしても取り消されたビザの数は昨年同時期の約4倍。留学生が標的の一つになっているのは明らかだ。

国務省はこの6月、各国にあるアメリカ大使館や領事館に対し留学生ビザ申請者が「アメリカ国民、文化、政府、各機関や建国理念に敵対的」でないことを確認するよう通達。留学生ビザ申請者にはSNSアカウントのプライバシー設定を「公開」に変更するよう求めており、審査を厳格化している。



写真はイメージ (photo: Unsplash / I'M ZION)

ビリオネア投資家も注目、NY・マンハッタンにオープンする「私立校」のAIカリキュラムがスゴい

2025.08.31

マンハッタンにこの9月新しくオープンする私立校アルファスクール（Alpha School）は、人工知能（AI）を活用した独自のカリキュラムで注目を集めている。同校は、国語・算数・理科・社会などの主要科目をAI対応ソフトを使って効率的に学習し、毎日わずか2時間でカリキュラムを消化できるとして従来の教育時間の半分以下で「2倍の学習効果がある」と主張。20日付のウォール・ストリート・ジャーナルがレポートしている。

◆他の学校と何が違う？

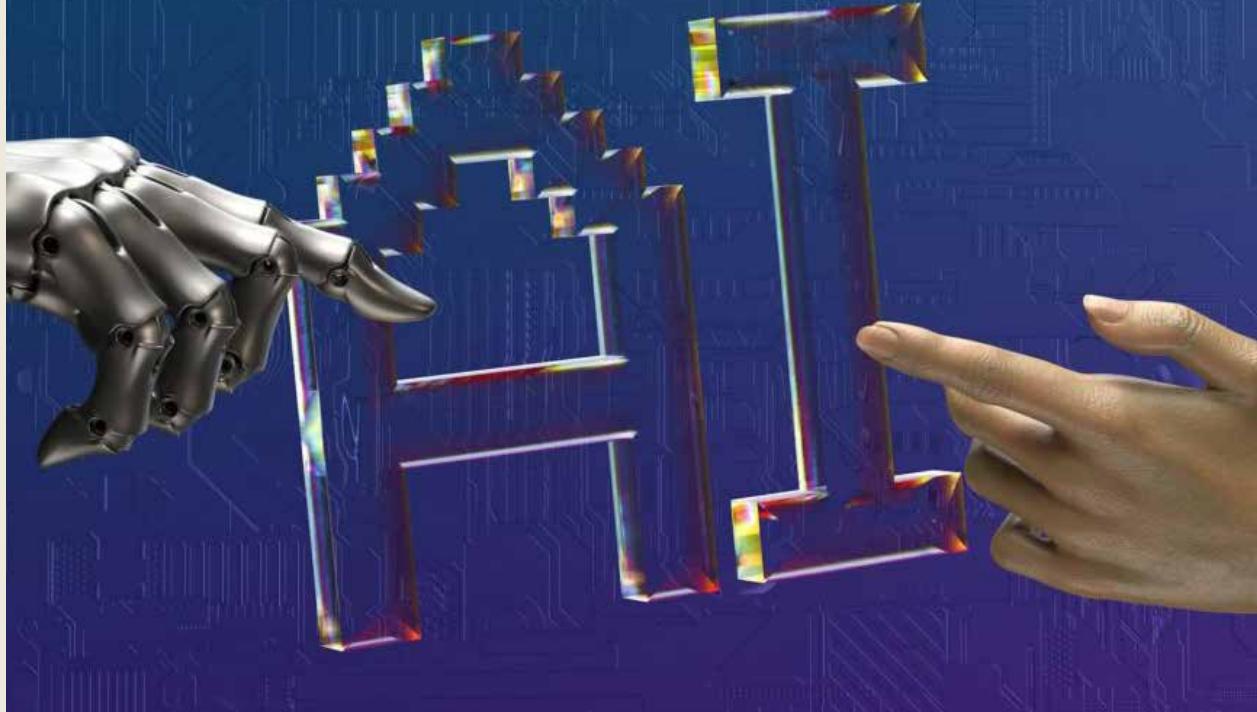
アルファスクールでは午後は学科授業から離れ、体験型の活動に時間を充てるのが特徴。5マイル（約8キロ）の自転車走行に挑戦したり、AIが作成したプランに基づいて自分の趣味や探究活動を深めたりする。学力と生活力を両立させるのが目的だ。

また同校では、教員を「先生」ではなく「ガイド」と呼ぶ。ガイドは必ずしも教員免許を持たず、さまざまなバックグラウンドを持つ人材が、子どもたちの学習と実体験活動をサポートするという。

既にテキサス、フロリダ、カリフォルニア州に校舎を持ち、今年中にアリゾナ、バージニア、ノースカロライナ州などにも展開予定。ニューヨーク校は幼稚園から中学2年生までを対象とし、学費は年間4万～6.5万ドルと、他の私立校と同程度の水準だ。

◆ ビリオネア投資家も注目！

著名投資家のビル・アックマン氏は、アルファスクールの取り組みに強い関心を寄せ、友人や知人を校舎見学に招待するなど、事実上のアンバサダーとして活動。教育分野でのAI導入が注目される中、ニューヨークにおける新しい教育モデルの一つとして今後の展開が期待される。



写真はイメージ (photo: Unsplash / Igor Omilaev)

教師が AI で「6 週間」を取り戻す！？ 教育現場で広がる活用と課題

2025.08.31

米調査会社のギャロップ (Gallup) と非営利の慈善団体ウォートンファミリー基金 (Walton Family Foundation) が発表した最新の調査で、アメリカの K-12（初等・中等教育）教育における AI 活用の実態が明らかになった。

◆ 教師のうち 60% が AI を使用

調査によれば、2024～25 年度に教師の 60% が AI ツールを使用しており、毎週 AI を活用する教師は平均で週 6 時間を節約できたと報告している。これは年間に換算すると約 6 週間分に相当し、節約した時間は個別指導や生徒へのフィードバック、保護者との連絡に充てられている。

調査は、AI が授業の質を高めることにも寄与していると指摘。定期的に AI を使う教師の多くが、授業計画や評価、フィードバックの質が向上したと回答。また、生徒の学習意欲や学びのアクセシビリティーに関しても、AI がプラスに作用しているとの声が多い。

◆ 一方で格差も

ただし、導入の広がりは一様ではない。教師の 40% は AI を全く使っていないと答えており、学校全体で正式な AI ポリシーを持つと回答したのは 19% にとどまった。調査では、ポリシーや支援体制がある学校の方が、教師が節約できる時間も大きいことが示されている。

ギャロップの調査は、AI を使う教師の多くが「AI は教育の質を高める」と考えている一方で、効果的に活用するためには教師と生徒双方への研修や支援が不可欠だと結論付けている。AI が教育に根づくにつれて、現場におけるサポートと制度設計の重要性が増している。



写真はイメージ (photo: Unsplash / Dolo Iglesias)

グラミー賞受賞ミュージシャンが教育現場に、 時代遅れの「アート授業」をアップデート 2025.09.1

カリフォルニア州ロサンゼルスにある音楽専門の博物館、グラミー博物館（GRAMMY Museum）と、コネティカット州ニューヘイブンの公立校が協力し、教師向けのアート教育研修「Creators' Classroom – Student Spark」を始動。講師陣には実践現場に近いアーティストが並び、時代に合ったアート授業の再構築を目指す。ニューヘイブンの新聞、ニューヘイブンレジスター 22 日、伝えた。

ニューヘイブンで長年アートを教えてきた教師、パトリック・W・スミスさんは、従来のアート授業は現代の子どもたちにとって「50 年前のやり方」だと指摘。特に郊外では、「教師自身が現代音楽やツールに疎く、生徒の興味を引きにくい授業になってしまっていた」と振り返る。

◆「生きた芸術」を学ぶ機会に

研修プログラムでは、教師たちが実際のアーティストから「生きた芸術」を学ぶ。講師もグラミー賞受賞者やミュージシャン、作曲家、ダンサー、劇場関係者まで多彩。ワークショップも音楽制作、作詞、ショービジネス、視覚芸術、創作舞踊など多岐にわたり、現状からかけ離れた「教科書中心」の授業から生徒の興味を引き出す「体験型・現在型」の授業への転換を目指す。

スミスさんは、この研修を州内外に展開し、アート教育の全米的モデルにしたいと熱望している。「音楽教育のあり方を変えるんです。子どもたちがみんな『グラミー賞を受賞できる可能性がある』と感じられるように」

昔ながらのアート教育は、「教える側が安心できる内容」になりがちだった。しかし今回のように、実践に直結したアーティストとの対話と体験を通じて、教師自身が刺激を受ける機会を設けることが、「アート授業の革新につながる」とスミスさんは考えている。



Product of Japan

ゼリー飲料で エネルギー充電！



お買い求めはお近くの日系マーケット、またはオンラインストアにて



CHARGELEX.COM



AMAZON.COM

supported by



edu sun